

# 「泌尿器科保険診療の手引き第16版」 発刊に当たって

一般社団法人 日本臨床泌尿器科医会  
会長 斎藤 忠則

このたび、『泌尿器科保険診療の手引き第16版』  
を発刊する運びとなりました。

診療報酬制度は二年ごとの改定を重ね、本巻も  
約30年以上の歴史を重ねました。

わが国の医療を取り巻く環境は大きく変化を続  
けています。診療報酬制度は二年ごとの改定を重ね、医療DXの推進、地域包括ケアシステムの深化、働き方改革への対応など、私たち泌尿器科医に求められる役割はますます多様化しています。そのような中であっても、保険診療の基本原則を正しく理解し、適切な診療を継続していくことは、安全で質の高い医療を提供するための重要な基盤であります。



本手引きは、日常診療で遭遇する保険診療上の疑問点や留意事項について、泌尿器科診療の実際に即した形で整理し、実務に役立つことを目的として編集されています。保険制度は複雑化し、解釈や運用も時代とともに変化しますが、現場で診療に携わる先生方が必要な情報を容易に確認できるよう工夫を凝らしてあります。特に今回の16版は、混迷を極める前立腺癌の治療に関し、新規前立腺癌治療薬に関し、富士幸蔵保険担当理事を中心に、適応症・必要病名につきまとめてあります。正井基之副会長・富士幸蔵専務理事ならびに保険委員会の先生方が最新の知見を踏まえて内容の充実を図ってくださいました。関係各位のご尽力に深く敬意を表します。

保険診療は単に診療報酬を請求するための知識ではなく、限りある医療資源を有効に活用し、患者さんへ適切な医療を公平に提供するための社会的責務でもあります。本手引きが、開業医・勤務医を問わず、また若手医師から経験豊富な先生方まで、多くの会員の皆様の日常診療において実践的な指針となることを願っております。

日本臨床泌尿器科医会の役員は、社会保険・国民健康保険の審査員も多く、今後も保険診療に関する情報提供やQ&Aの充実、診療現場から寄せられる課題への対応を通じて、会員の皆様の支援するとともに、国民により良い泌尿器科医療を提供できる環境づくりに努めてまいります。

最後に、本書の編集・改訂に携わっていただいた編集委員会、保険委員会ならびに関係者の皆様に心より感謝申し上げます。本手引きが会員の皆様の診療に広く活用され、適正な保険診療の実践に寄与することを祈念し、発刊のご挨拶といたします。

令和8年7月